令和 8 年度　日本水産増殖学会　第 24 回大会
プログラム

【会期】

2026 年 11 月 27 日（金）～11 月 28 日（土）

【会場】

九州大学 西新プラザ（〒814-0002 福岡県福岡市早良区西新 2-16-23）

【アクセス】

福岡空港から地下鉄「姪浜」「筑前前原」「西唐津」行き乗車　約20分
博多駅から、地下鉄「姪浜」「筑前前原」「西唐津」行き乗車　約15分
→いずれも、「西新」駅下車、⑦番出口より徒歩約10分

【連絡先】

大会事務局
E-mail: jsas2026@agr.kyushu-u.ac.jp

タイムテーブルおよび会場図

11 月 27 日（金）

<table>
<tr><td colspan="3">8:40- 受付開始</td></tr>
<tr><th>大会議室</th><th>中会議室</th><th>展示コーナー</th></tr>
<tr><td rowspan="2">9:15-12:00
口頭発表（第 1 会場）</td><td></td><td rowspan="3"></td></tr>
<tr><td>10:15-12:00
口頭発表（第 2 会場）</td></tr>
<tr><td rowspan="3"></td><td rowspan="4"></td></tr>
<tr><td>12:45-13:25
ポスター発表（奇数）</td></tr>
<tr><td>13:25-14:05
ポスター発表（偶数）</td></tr>
<tr><td rowspan="3">14:15-18:15
口頭発表（第 1 会場）</td><td rowspan="2">15:00-16:15
口頭発表（第 2 会場）</td><td rowspan="3"></td></tr>
<tr><td></td></tr>
<tr><td colspan="3">19:00- 懇親会（希望者のみ）</td></tr>
</table>

※ 懇親会にて学生・若手優秀賞発表を行います。

11 月 28 日（土）

<table>
<tr><th>大会議室</th><th>多目的室前</th><td rowspan="5"></td></tr>
<tr><td>9:00-11:25
シンポジウム</td><td></td></tr>
<tr><td></td><td>11:30-12:00
高校生発表</td></tr>
<tr><td>12:00-12:15
表彰式（高校生発表）</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">12:45- エクスカーション（希望者のみ）</td></tr>
</table>

※ エクスカーションにご参加の方は、12:45 に 1F エントランスホールへ
お集まりください。

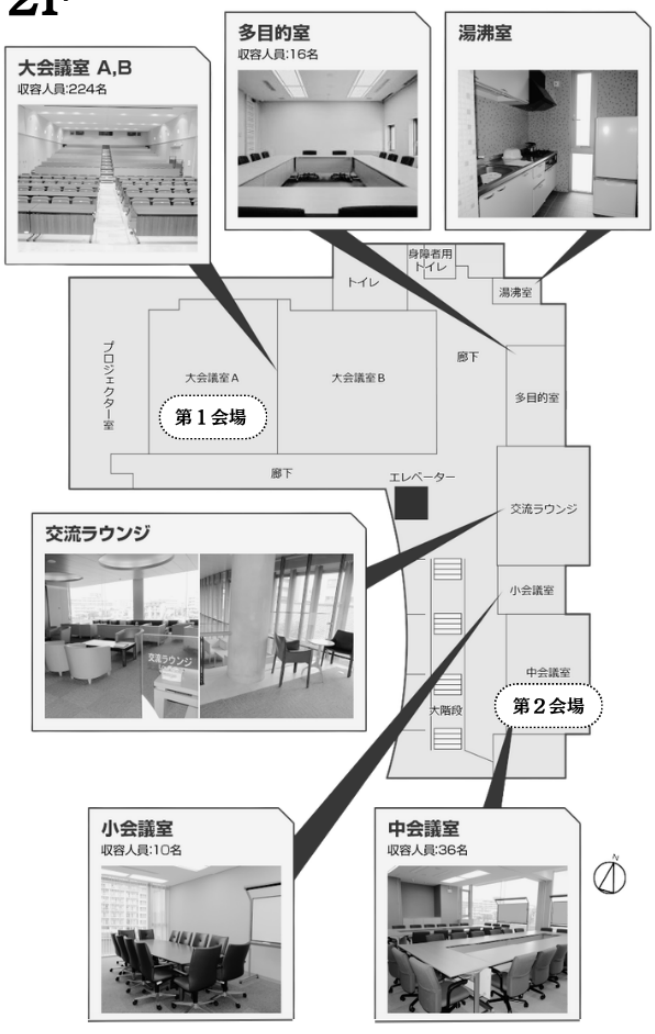
その他

評議員会： 11 月 27 日（金）12:00-（多目的室）
企業展示： 大会期間中（多目的室前）

1F


展示コーナー
パネル展示・懇親会等に使用できます。
レンタルオフィス(現在、入居中)
学術研究・社会連携等を目的とした研究者・団体等にオフィス(長期使用)として提供しています。
P
トイレ
P
テラス
展示コーナー
ポスター発表
オフィスB
オフィスA
エレベーター
産学交流棟(現在、入居中)
福岡市有形文化財に指定されています。
エントランスホール
玄関
自販機
記憶の庭
産学交流棟
窓口
ラウンジ
管理室
階段室
産学交流棟の紹介
管理室
管理人が常駐しています。

2F


大会議室 A,B
収容人員:224名
多目的室
収容人員:16名
湯沸室
身障者用トイレ
トイレ
湯沸室
プロジェクター室
大会議室A
大会議室B
廊下
多目的室
第1会場
廊下
エレベーター
交流ラウンジ
交流ラウンジ
小会議室
中会議室
大階段
第2会場
小会議室
収容人員:10名
中会議室
収容人員:36名

11 月 27 日（金）
口頭発表（第 1 会場）

2F 大講義室

*は学生の審査希望
**は若手研究者の審査希望

［O-01*］ 9:15-9:30
完全養殖マサバにおける低酸素耐性関連 SNP の探索と候補マーカーの検証
近﨑真紀子[1]・中本正俊[2]・長野直樹[3]・松山倫也[1]・Chakraborty Tapas[1]・太田耕平[1]
([1]九大院農, [2] Umios, [3]宮崎大農)

［O-02*］ 9:30-9:45
サンマ性関連領域の探索と遺伝的性判別手法への応用
氏家慧士[1]・加藤翼[1]・澤山英太郎[2]・山本洋嗣[1]（[1]海洋大院, [2]日大生物資源）

［O-03**］ 9:45-10:00
マツカワ形態異常魚の出現と家系の関係
後藤千佳（函館水試）

［O-04*］ 10:00-10:15
ブリ若齢個体の生殖腺発達および成長における生殖関連内分泌因子の挙動について
須賀仁美[1]・山口尚輝[1]・村田良介[2]・征矢野清[2]（[1]長大院総合,[2]長大海セ）

［O-05**］ 10:15-10:30
性成熟が養殖クロマグロの成長に及ぼす影響
林田貴雄・樋口健太郎・入路光雄・髙志利宜（水産機構技術研）

［O-06**］ 10:30-10:45
マアジの最終卵成熟・排卵誘導法の再評価－GnRH アナログと hCG の比較－
町田有里[1]・樽本佳音[1]・星竜也[1]・八尋逸清[2]・吉崎悟朗[2]・森田哲朗[1･2]
([1]さかなドリーム, [2]海洋大)

10:45-11:00 休憩

［O-07*］ 11:00-11:15
ムラサキウニおよびキタムラサキウニの活輸送における最適条件の検討
浦翼空[1]・片山亜優[2]・栗田喜久[1]（[1]九大院水実,[2]宮城大食産）

［O-08*］ 11:15-11:30
アオリイカの卵黄蓄積に伴う卵濾胞細胞の増殖と機能変化
原雅治[1]・山口燿[2]・村田良介[3]・征矢野清[3]（[1]長大院生産, [2]北大院水, [3]長大海セ）

［O-09*］ 11:30-11:45
アマモの被度および草丈がアオリイカの産卵に及ぼす影響
根田亮[1]・平田雫[2]・村田良介[3]・Gregory N Nishihara[3]・征矢野清[3]
([1]長大院生産, [2]長大水, [3]長大海セ)

［O-10*］ 11:45-12:00

産卵場における生物採集と環境 DNA 解析によるアオリイカ初期餌料の探索

細田みのり[1]・笹野祥愛[2]・今井秀行[3]・竹村明洋[4]・池田譲[3]
([1]琉球大院理工, [2]水産機構技術研, [3]琉球大理, [4]琉球大研推機構)

12:00-14:15 昼休み

［O-11*］ 14:15-14:30

Effects of stocking density and shelter on growth and survival of net-box reared spiny lobster (*Panulirus homarus*), with preliminary evaluation of biofouling as feed

Kaipei Li[1]・Kevin Goeghehan[1]・Chi Chiu Lo[1]・Juan Carlos Astudillo[1,2]
([1]School of Science and Technology, Hong Kong Metropolitan University, Hong Kong, China, [2]State Key Laboratory of Marine Environmental Health and Department of Chemistry, City University of Hong Kong, Hong Kong, China)

［O-12**］ 14:30-14:45

バナメイエビにおける 28 日間冷蔵保存精子塊を用いた人工交配と幼生の発育

渡邊正弥[1,2]・森田哲朗[2]・吉崎悟朗[2] ([1]株式会社ニッスイ, [2]海洋大)

［O-13**］ 14:45-15:00

クビレズタの生産性向上に向けた母藻定植量の検討

島田明典[1]・荻原豪太[1]・渡部奈緒子[1]・遠藤雅人[2] ([1]西松建設技研, [2]海洋大)

［O-14**］ 15:00-15:15

オホーツク海におけるホタテガイ中間育成篭の動揺特性と稚貝生残の季節変化

平尾真也[1]・山﨑千登勢[1]・永田淳[2]・三好晃治[3]・栗原康裕[4]
([1]網走水試, [2]北大院水, [3]道央水試, [4]道栽水試)

［O-15*］ 15:15-15:30

バイオ生分解性素材の漁具適性：長期耐久性および生物付着に関する実環境試験

栃原威月[1]・栗田喜久[1]・貝田昂大[2]・中村優作[2] ([1]九大院水実, [2]ニチモウ)

［O-16*］ 15:30-15:45

ガス透過膜を用いた効率的な溶存酸素除去に対するハプト藻 *Tisochrysis lutea* の脂肪酸・色素生産への影響

藤井正志[1]・髙山佳樹[2]・戸田龍樹[1] ([1]創価大院・理工, [2]横国大院・環情)

［O-17*］ 15:45-16:00

循環型グリーンウォーターシステムにおける微細藻類とカイアシ類の共存培養系の構築

ブライアン チョン ウェイ コン[1]・髙山佳樹[2]・戸田龍樹[1,3]
([1]創価大院・理工, [2]横国大院・環情, [3]トレンガヌ大・IMB)

［O-18**］ 16:00-16:15

水温上昇に伴うワムシ *Brachionus plicatilis* の生殖機能および N-結合型糖鎖の変化

韓程燕[1]・須田美雨[2]・阪倉良孝[1]・馳平加代[3]・鈴木信雄[4]・宮西伸光[3]・萩原篤志[1]
([1]長大院生産, [2]長大水, [3]東洋大食環, [4]金沢大臨海)

16:15-16:30 休憩

［O-19*］ 16:30-16:45

配合飼料用魚粉代替タンパク質源としてのワムシおよびミルワームの有用性について

髙橋怜央[1]・大海総一[2]・佐々木拓[3]・小谷知也[1,3] ([1]鹿大院農水研, [2]鹿大水, [3]鹿大院連農)

［O-20*］ 16:45-17:00

海産ヨコエビの新規養殖餌料化に向けて

的場風聖・松永桃葉・島田奈緒・栗田喜久（九大院水実）

［O-21*］ 17:00-17:15

ハモ仔魚における浮上性スラリー状飼料の給餌効果－摂餌個体を多数確認－

佐野晶洋・森本周平・宮村幸汰・辻川祐太朗・立田葵葉・山下洋・中務寛・服部亘宏・
福西悠一・中田久（近大水研）

［O-22**］ 17:15-17:30

海水飼育下のニジマスに対する昆虫タンパクおよびグルタチオン配合飼料の有効性

山田良希[1]・大原裕也[2]・繁田明日加[3]・保﨑有香[3]・水谷亮介[4]・磯前佑梨[4]・社優花[4]・
片野田大輝[5]・伊地知栞[6]・泉庄太郎[7]・山崎剛[7]・秋山信彦[1]
([1]東海大 ATC, [2]静岡県立大, [3]鈴生, [4]農産工水技セ, [5]WAKU, [6]東海大院海洋,
[7]東海大海洋)

［O-23*］ 17:30-17:45

Dietary inclusion of jack mackerel meal in low-fish meal diets substituting 25% of fish meal with high protein distillers dried grains with solubles on the growth performance, feed utilization, and economic analysis of olive flounder (*Paralichthys olivaceus*)

Hae Chan Shin[1]・Sung Hwoan Cho[2]
([1] Department of Convergence Interdisciplinary Education of Maritime & Ocean Logistics, National Korea Maritime and Ocean University, Republic of Korea, [2] Division of Convergence on Marine Science, National Korea Maritime & Ocean University, Republic of Korea)

［O-24*］ 17:45-18:00

糸状菌 *Trichoderma reesei* 菌体残渣の魚粉代替利用がマサバの成長成績および体成分に及ぼす影響

椎野真那[1]・増川琉太[1]・赤塚孝治[2]・半田亮佑[2]・山町紗季[3]・泉可也[2, 3]・Chakraborty Tapas[4]・
太田耕平[4]・長野直樹[1]（[1]宮崎大農, [2]Biomaterial in Tokyo, [3]大興製紙, [4]九大院農）

［O-25**］ 18:00-18:15

キジハタにおける植物性タンパク質による高率魚粉代替飼料の利用性

荻原豪太[1,2]・渡部奈緒子[1]・細井公富[3]・佐藤秀一[3]
([1]西松建設技研, [2]福井県大院生資, [3]福井県大海洋生資）

11 月 27 日（金）
口頭発表（第2会場）
2F 中会議室

［O-26］ 10:15-10:30
海産カイアシ類 *Acartia tonsa* の密度調整が個体群増殖に与える効果
飯田隆葵[1]・林綾乃[2]・小谷知也[1,2]（[1]鹿大水, [2]鹿大院農水）

［O-27］ 10:30-10:45
AVAILABILITY OF WASTED TOFU MEAL AS AN ALTERNATIVE OF FISH MEAL IN JUVENILE YELLOWTAIL, *Seriola quinqueradiata*
Amal Biswas[1]・Rino Nakajima[1]・Yuko Fujimoto[1]・Hiroya Sato[2]・Hiroshi Fushimi[2]・Hideki Tanaka[1]
([1]Aquaculture Research Institute, Kindai University, [2]RegenWorks Co. Ltd.)

10:45-11:00 休憩

［O-28］ 11:00-11:15
マダイ種苗の急性低酸素耐性形質は育種可能か？
長田晃青・澤山英太郎（日大生物資源）

［O-29］ 11:15-11:30
サヨリの 5 世代継続生産:新たな養殖対象種としての可能性
松原創[1]・永見新[1]・春見達郎[2]・アヒャ ラフディン[1]・重松惇志[1]・中出雅大[1]・小林昇市[1]・坂井一博[1]・稲田圭佑[1]・関祐希[1]・平山順[3]・小木曽正造[4]・鈴木信雄[4]・柳町隆造[5]
([1]金大能登水セ, [2]旭川医大, [3]文教大, [4]金大臨海, [5]ハワイ大医）

［O-30］ 11:30-11:45
養殖マサバにおけるアニサキス寄生状況の経時的変化
岩崎隆志[1]・湊川莉菜[2]・阿武遼吾[3]・松永善文[3]・小川渉[4]・河部努[4]・安本信哉[2]・橋本博[2]
([1]水産機構本部, [2]水産機構水大校, [3]山口県, [4]長州ながと水産）

［O-31］ 11:45-12:00
ハカタスジシマドジョウにおける生息域外・域内保全を目的とした繁殖手法の検討
鈴木泰也・坂上真咲（マリンワールド海の中道）

12:00-15:00 昼休み

［O-32］ 15:00-15:15
水路式水槽によるマダコ飼育
伊藤篤[1]・竹島利[1]・関澤彩眞[1]・今井正[1]・﨑山一孝[1]・亀井良則[2]
([1]水産機構技術研, [2]岡山水研）

［O-33］ 15:15-15:30
ミズダコ幼生における飼育適水温の検討
岩坪想太[1]・笹井清二[2]・田原大輔[1]（[1]福井県大, [2]越前松島水族館）

［O-34］ 15:30-15:45
環境 DNA 定量メタバーコーディングによるカジメ養殖場の魚類多様性評価
丹羽健太郎[1]・澤山周平[1,2]・鬼塚年弘[1]・白藤徳夫[1]（[1]水産機構技術研, [2]水産機構資源研）

［O-35］ 15:45-16:00
単眼カメラ撮影による養殖魚の体サイズ・遊泳状態の推定
瀬川晃生・米山和良（北大院水）

［O-36］ 16:00-16:15
夏季の海水温が養殖ホタテガイの翌春の繁殖に与える影響
川崎琢真・上田奈緒・奥村裕弥（道栽水試）

11 月 27 日（金）
ポスター発表

1F 展示コーナー
12:45-13:25　奇数番号の発表者
13:25-14:05　偶数番号の発表者

*は学生の審査希望
**は若手研究者の審査希望

［P-01*］
LED 照明色、照射時間および水槽壁面色がマダイ人工種苗に与える影響
川原久美[1]・竹内久登[1,2]・高木基裕[1,2]（[1]愛媛大院農, [2]愛媛大南水研セ）

［P-02*］
ニホンウナギ仔魚の酸素消費速度に及ぼす発育段階，水温および塩分の影響
塩田大将[1]・壁谷尚樹[1]・犬伏凌久[2]・石川卓[3]・金子信人[3]・福井洋平[3]・鈴木博史[3]・野村和晴[3]・田中秀樹[4]・石橋泰典[1,2]（[1]近大院農, [2]近大農, [3]水研機構技術研, [4]近大水研）

［P-03**］
コチョウザメ *Acipenser ruthenus* の成長に伴う体型変化と代謝スケーリングの変化
金東仁（千葉科学大学 危機管理学部 動物危機管理学科）

［P-04*］
浮上後の生育環境がサケ稚魚の海水移行後の成長および遺伝子発現に及ぼす影響
小亀友也[1]・卜部浩一[1]・藤本貴史[2]（[1]さけます内水試, [2]北大院水）

［P-05*］
奄美産タマカイの個別飼育下における若魚期から 2 歳までの成長特性
大谷謙心[1]・谷口颯汰[2]・増井翼[2]・青木隆一郎[3]（[1]近大院農,[2]近大農,[3]近大水研）

［P-06］
代理親魚どうしの交配によるアジ科ハイブリッド養殖魚の生産
木村ひとみ・荒井俊之介・原田将登・矢澤良輔・吉崎悟朗・森田哲朗（海洋大）

［P-07*］
長期飼育におけるハイブリッドサバ(ゴマサバ♀×マサバ♂)とマサバの成長性と高水温耐性の比較
吉田蒼汰・安曇奏汰・大胡田怜生・友田葵・池田拓史・黒柳美和・八杉公基・吉浦康寿
（福井県大海洋生資）

［P-08*］
マサバ(♀)×ゴマサバ(♂)雑種における遺伝型性・表現型性および不妊性の解析
池田拓史・八尋逸清・森田哲朗・矢澤良輔（海洋大）

［P-09**］
ガラス化によるゴマサバの精巣組織の超低温保存法の開発
八尋逸清・森田哲朗・吉崎悟朗・矢澤良輔（海洋大）

［P-10］
ブリの人工授精における凍結精子希釈条件の検討
柴田季子・泉田大介・西原輝・足立賢太・山本一毅・菅谷琢磨・堀田卓朗 （水産機構技術研）

［P-11*］
完全養殖マサバの性分化時生殖腺における発現遺伝子と組織構造の解析
江口瑛[1]・小園駿佑[1]・竹内諒[1]・Nguyen The Vuong[1]・Mohapatra Sipra[1]・河﨑敏広[1]・
八尋逸清[2]・伊藤武彦[3]・長野直樹[4]・松山倫也[1]・Chakraborty Tapas[1]・太田耕平[1]
([1]九大院農, [2]海洋大,[3] 科学大生命理工,[4] 宮崎大農）

［P-12*］
性転換魚ホシササノハベラにおける生殖幹細胞の局在と分化動態の解析
永石凌我[1]・三品達平[1]・豊田敦[2]・伊藤武彦[3]・松山倫也[1]・Chakraborty Tapas[1]・長濱嘉孝[4, 5]・
太田耕平[1] ([1]九大院農, [2]遺伝研, [3]科学大生命理工, [4]金沢大生命理工, [5]基生研）

［P-13*］
性転換魚ホシササノハベラの生殖腺における免疫関連細胞の探索
石原はる花[1]・永石凌我[1]・三品達平[1]・杣本智軌[1]・豊田敦[2]・伊藤武彦[3]・松山倫也[1]・
Chakraborty Tapas[1]・長濱嘉孝[4,5]・太田耕平[1]
([1]九大院農, [2]遺伝研,[3]科学大生命理工,[4]金沢大生命理工, [5]基生研）

［P-14*］
アミメハギ雄の条件依存的な卵保護行動発現に関連する脳内遺伝子発現パターン
塩谷青澄[1]・小北智之[2] ([1]九大院生資環, [2]九大院農）

［P-15*］
眼状紋から探る幼魚−成魚間の模様変異のトランスクリプトーム基盤
大賀舞香[1]・小北智之[2] ([1]九大院生資環, [2]九大院農）

［P-16*］
シシャモの急性・慢性高水温耐性に関するゲノムワイド関連解析
吉澤史織[1]・山田麗美[2]・長谷川竜也[3]・岡田のぞみ[4]・牧口祐也[1]・澤山英太郎[1,2]
([1]日大院生物資源, [2]日大生物資源, [3]道栽水試, [4]道中央水試）

［P-17］
カワヤツメとシベリアヤツメにおける外部形態を指標とした成熟度の鑑別
松原創[1]・高田彩[2]・町田善康[3]・永見新[1]・平山順[4]・小木曽正造[5]・鈴木信雄[5]・トマスミュラー[6]
([1]金大能登水セ,[2]東農大アクア,[3]美幌博物館,[4]文教大,[5]金大臨海,
[6]ハンガリー農学生命科学大）

［P-18］
治山ダムとそのスリット化がオショロコマの移動と生殖腺形成に及ぼす影響
松原創[1]・秋葉崇[2]・川崎琢真[3]・永見新[1]・平山順[4]・小木曽正造[5]・鈴木信雄[5]
([1]金大能登水セ,[2]東農大アクア,[3]道総研,[4]文教大,[5]金大臨海）

［P-19*］
養殖マサバの初回成熟に関わるエピジェネティクス制御基盤の探索
河野了磨[1]・Galotta Mariel[1]・長野直樹[2]・伊藤武彦[3]・松山倫也[1]・Chakraborty Tapas[1]・
太田耕平[1]（[1]九大院農, [2]宮崎大農, [3]科学大生命理工）

［P-20*］
養殖マサバの成長差に関連する脳下垂体の全ゲノムメチル化解析
宮崎祥太朗[1]・上浦諒大[1]・長野直樹[2]・伊藤武彦[3]・松山倫也[1]・Chakraborty Tapas[1]・
太田耕平[1]（[1]九大院農, [2]宮崎大農, [3]科学大生命理工）

［P-21*］
2020 – 2026 年の玄界灘周辺のブリ属仔稚魚の出現状況
横森由唯[1]・大脇拓洋[1]・髙柳利恩[1]・小山喬[1]・内田淳[2]・保科草太[2]・田中香月[2]・青島隆[2]・
山脇信博[2]・合澤格[2]・眞角聡[2]・丸山裕豊[2]・森井康宏[2]・河邊玲[1]・阪倉良孝[1]
([1]長大院総, [2]長大水）

［P-22］
植食性魚類ノトイスズミの夜間における摂餌選択性
野田勉[1,3]・門田 立[1]・増渕隆仁[2]・伊藤慶造[1]・藤井香帆[1]・野村真菜[1]・Gregory N. Nishihara[3,4]
([1]水産機構技術研, [2]水産機構資源研, [3]長崎大学, [4]福島国際研究教育機構）

［P-23*］
野生海産魚における摂食様式および鰓耙形態とマイクロプラスチック摂取との関係
前田健伸・高井優生・直井馨・島崎洋平（九大院農）

［P-24］
魚類幽門垂の消化吸収機能に関するナラティブレビュー
木原稔（東海大生物）

［P-25］
イチゴ葉粉末添加飼料の給餌が養殖サバ血合肉の色調に及ぼす効果
太田耕平[1]・Tapas Chakraborty[1]・藤﨑博[2]・松本日向乃[2]・岩元彬[3]・鶴田裕美[3]・柘植圭介[3]・
福元亨[2]（[1]九大院農, [2]佐賀玄水セ, [3]佐賀工技セ）

［P-26**］
持続可能な養殖飼料開発に向けたエリサン蛹粉の利用性評価
成泰敬[1]・福永耕大[1]・Kyuho Lee[2]・Jihun Kim[2]・西平隆樹[1]・田井中慎[3]・小松英司[3]・
Sung-Pyo Hur[2]・芳賀穣[4]・竹村明洋[1]（[1]琉球大, [2]済州大, [3]Insect Technology, [4]海洋大）

［P-27*］
廃棄バイオマス由来のγ-アミノ酪酸の添加がシオミズツボワムシの増殖に与える影響
岡上茂史・仲山プラ・仲山英樹・阪倉良孝・韓程燕（長大院生産）

［P-28*］
カミナリイカ種苗生産技術開発に向けた初期餌料の検討
山村実夢[1]・村田良介[2]・征矢野清[2]（[1]長大院生産, [2]長大海セ）

［P-29*］
アオリイカ卵塊表面の付着物の定量評価とアマモと人工産卵床の比較
平田雫[1]・根田亮[2]・村田良介[3]・Gregory N Nishihara[3]・征矢野清[3]
([1]長大水, [2]長大院生産, [3]長大海セ）

［P-30］
リシケタイラギ種苗生産における海水使用量の削減
今井正・山田充哉・伊藤篤 （水産機構技術研）

［P-31］
水温がホタテガイ浮遊幼生の成長と生残に及ぼす影響
川崎琢真・上田奈緒（道栽水試）

［P-32］
養殖池におけるクルマエビの行動観察
伏屋玲子・高田宜武（水産機構技術研）

［P-33*］
サザエ蓄養時における味と歯応えの変化の生物学的基盤解明
栗塚銀河・栗田喜久（九大院水実）

［P-34**］
クビレズタの生長と形態形成：高品質な海ぶどうの作り方
～養殖発祥の地 恩納村からの挑戦～
上原匡人・與那嶺豊・喜納正也・仲村恵太・當山博己（恩納村漁協）

［P-35*］
魚介類のプロジェクター光による行動制御法の開発-26
プロジェクションによるクロマグロ稚魚の集魚方法の検討
稲葉松太郎[1]・都築星矢[1]・井土孝志[2]・片山茂和[2]・岡田貴彦[2]・石橋泰典[1]
([1]近大院農,[2]近大水研)

［P-36］
魚介類のプロジェクター光による行動制御法の開発-27
プロジェクションによるアユ稚魚の集魚方法の検討
兼岡祥汰[1]・小林乃彩[2]・石橋泰典[1,2]（[1]近大院農,[2]近大農）

［P-37］
魚介類のプロジェクター光による行動制御法の開発-28
オニテナガエビ幼生の発育に伴う対光行動特性の変化
今中陽奈・石橋泰典（近大院農）

［P-38*］
沖合浮沈養殖システムの浮沈過程における挙動解析
諸井春哉・塩出大輔・董書闖（海洋大）

［P-39*］
海洋環境の変化に対応可能な柔軟膜型海面半閉鎖循環式養殖システムの開発
～飼育水量が生簀の変形特性と流体抵抗に及ぼす影響～
染河威生・陳達傑・塩出大輔・董書闖（海洋大）

［P-40*］
サクラマス養殖の経済性を考慮した研究目標値の検討
井阪子龍[1]・田丸修[2,3]・米山和良[1]（[1]北大院水,[2]北大,[3]EYSC）

11 月 28 日（土）
高校生発表

11:30-12:00　2F　多目的室前

［H-01］

***Aurantiochytrium limacinum* のリパーゼ局在に関する研究**

松永瑠奈[1]・松尾優花[2]・沖野望[3]
（[1]熊本県立八代高校, QFC-SP, [2]九大院生資環, [3]九大院農）

［H-02］

ボートレース蒲郡に生息するニホンウナギ

岸春道・井上心優・中澤七海・多和田さとる・加藤獅玄・鴨下世來・田邉樹・寺田こころ・
安田渚音・山下真緒・緒方葉月・森悠公 （愛知県立三谷水産高等学校）

［H-03］

ニホンウナギの絶滅を回避し持続可能な社会をつくる森林のはたらき

守瀬久遠・川島隆星・川村詩月・板橋厚次郎 （福岡県立山門高等学校 One ヘルスクラブ）

11 月 28 日（土）
日本水産増殖学会シンポジウム

2F 大講義室

「水産増養殖技術の高度化と社会実装：さらなる展開に向けて」

9:00 - 9:05　開会挨拶・趣旨説明
太田耕平（九州大学）

9:05 - 9:25　［S-01］マサバ養殖の現状と課題
長野直樹（宮崎大学）

9:25 - 9:45　［S-02］シルクタンパク質を利用した魚類への経口デリバリー法の開発
杣本智軌（九州大学）

9:45 - 10:05　［S-03］守るトレーサビリティから、価値を生み出すトレーサビリティへ
眞次一満（九州産業大学）

10:05 - 10:15　休憩

10:15 - 10:35　［S-04］水産増養殖を支える次世代脂質資源の創出：ラビリンチュラ類を用いた多価不飽和脂肪酸の自在生産
石橋洋平（九州大学）

10:35 - 10:55　［S-05］種の保存法指定種セボシタビラの人工繁殖と再導入
鬼倉徳雄（九州大学）

10:55 - 11:10　［S-06］生殖研究が拓く、養殖マサバの品種開発と地域希少魚の保全
太田耕平（九州大学）

11:10 - 11:20　総合討論・意見交換

11:25　閉会

共催：　九州大学アクアバイオリソース創出センター

後援：　国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構
生物系特定産業技術研究支援センター（BRAIN）

独立行政法人 環境再生保全機構（ERCA）

令和 8 年度　日本水産増殖学会　第 24 回大会

【大会長】
太田耕平　　（九州大学）

【大会実行委員】
杣本智軌　　（九州大学）
島崎洋平　　（九州大学）
栗田喜久　　（九州大学）
栗原暁　　（九州大学）

【大会運営・シンポジウム担当】
中尾実樹　　（九州大学）
沖野望　　（九州大学）
小北智之　　（九州大学）
石橋洋平　　（九州大学）
長澤貴宏　　（九州大学）
小山彰彦　　（九州大学）
高井優生　　（九州大学）
三品達平　　（九州大学）
Chakraborty Tapas（九州大学）

【大会事務局】
〒819-0395 福岡市西区元岡 744
九州大学農学研究院附属アクアバイオリソース創出センター
九州大学大学院農学研究院　海洋生物学研究室内
E-mail: jsas2026@agr.kyushu-u.ac.jp